

# 貸借対照表

平成31年3月31日現在

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	3,088,393	<b>流動負債</b>	1,113,286
現金及び預金	21,638	買掛金	803,155
売掛金	1,081,844	リース債務	57,775
商品	1,183	未払金	61,367
貯蔵品	884	未払消費税等	7,244
仕掛品	8,966	未払法人税等	39,951
短期貸付金	1,832,570	未払事業所税	3,474
前払費用	114,070	前受収益	23,962
その他	27,234	賞与引当金	82,419
<b>固定資産</b>	593,877	製品保証引当金	9,117
有形固定資産	84,134	その他	24,819
建物附属設備	7,946	<b>固定負債</b>	608,426
工具器具備品	33,184	リース債務	236,804
リース資産	43,003	退職給付引当金	326,079
無形固定資産	263,862	役員退職慰労引当金	45,542
電話加入権	3,522	<b>負債合計</b>	1,721,713
リース資産	185,436	<b>(純資産の部)</b>	
ソフトウェア	74,903	<b>株主資本</b>	1,960,557
投資その他の資産	245,880	資本金	100,000
貸倒懸念債権	157,661	利益剰余金	1,860,557
貸倒引当金	△ 157,661	利益準備金	25,000
長期前払費用	63,391	その他利益剰余金	1,835,557
敷金	18,444	繰越利益剰余金	1,835,557
繰延税金資産	164,033	<b>純資産合計</b>	1,960,557
その他	10	<b>負債・純資産合計</b>	3,682,270
<b>資産合計</b>	3,682,270		

# 個別注記表

平成30年4月 1日から  
平成31年3月31日まで

## I 重要な会計方針に係る事項に関する注記

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

- (1) 商品は、個別法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）によっております。
- (2) 仕掛品は、個別法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）によっております。

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）によっております。なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

#### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。但し、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### 3. 引当金の計上基準

#### (1) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

#### (2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

#### (3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

#### (4) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に債権の回収可能性を勘案して回収不能額を計上しております。なお、貸倒懸念債権157,661,669円は、その全額が当社元社員の不正取引による税務上の否認額であり、その全額を貸倒引当金として計上しております。

#### (5) 製品保証引当金

完成ソフトについて無償で行う保証費用に備えるため、過去の実績率に基づく将来の保証見込額を計上しております。

### 4. 収益及び費用の計上基準

当期末までの進捗部分について成果の確実性が認められるソフトウェア開発の請負契約については、工事進行基準を適用し、その他については、工事完成基準を適用しております。なお、工事進行基準を適用する場合の当事業年度末における進捗度の見積りは、原価比例法によっております。

5. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(2) 消費税等の処理方法

消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しております。

II 貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額 224,485 千円

2. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短期金銭債権 741,907 千円

短期金銭債務 8,277 千円

III 税効果会計に関する注記

繰延税金資産の発生の主な原因は、退職給付引当金、賞与引当金、役員退職慰労引当金等でありませ

IV 関連当事者との取引に関する注記

1. 親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	議決権等の被所有割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	北海道旅客鉄道株式会社	被所有 直接90%	ソフトウェア開発、情報システム運用・保守受託、情報処理機器販売など	ソフト開発	937,483	売掛金	621,235
				運用業務	558,174	売掛金	55,504
				機器販売	46,731	売掛金	24,031
				機器賃貸	34,664	売掛金	1,295
				保守	616,282	売掛金	22,300
				N S P	387,699	売掛金	1,764

取引条件及び取引条件の決定方針

(注1) 北海道旅客鉄道株式会社の取引条件は、見積価格を提示し、価格交渉の上、決定しております。

(注2) 取引金額には消費税等を含んでおりません。期末残高には消費税等を含んでおります。

## 2. 兄弟会社等

種類	会社等の名称	議決権等の被所有割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社の子会社	株式会社北海道 ジェイ・アール 商事	—	ソフトウェア開発、情報処理機器販売	ソフト開発	11,317	売掛金	518
				機器販売	60,254	売掛金	2,780
				保守	13,141	売掛金	7,017
				NSP	2,342	売掛金	210
			資金の貸付	CMS短期貸付金利息の受取	1,836	短期貸付金	1,832,570
			資金の借入	CMS短期借入金利息の支払	-	短期借入金	-

### 取引条件及び取引条件の決定方針

- (注1) 株式会社北海道ジェイ・アール商事との情報処理機器販売などの取引条件は、見積価格を提示し、価格交渉の上、決定しております。
- (注2) 資金の貸付及び借入の取引条件は、北海道旅客鉄道株式会社グループのCMSに参加する企業相互間で剰余金を融通するため、統括会社である株式会社北海道ジェイ・アール商事との包括的金銭消費貸借契約書によっております。
- (注3) 取引金額には消費税等を含んでおりません。期末残高には消費税等を含んでおります。

## V 1株当たり情報に関する注記

- |               |             |
|---------------|-------------|
| 1. 1株当たり純資産額  | 980,278円66銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 58,107円10銭  |

## VI 当期純損益額

当期純利益	116,214千円
-------	-----------

## VII その他の注記

貸借対照表及び個別注記表に記載されている金額は、単位未満を切り捨てて表示しております。ただし、1株当たり情報に関する注記については単位未満を四捨五入しております。